

さいたま市公民館運営審議会第7回会議 議事録

1 開催日時

令和5年5月23日(火) 午前10時00分から午前11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：11名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 加藤 美幸 副委員長
- ③ 石田 玲子 委員
- ④ 植杉 嘉明 委員
- ⑤ 大塚 晶子 委員
- ⑥ 加藤 恒 委員
- ⑦ 栗原 保 委員
- ⑧ 小林 玲子 委員
- ⑨ 島田 正次 委員
- ⑩ 白石 徳一郎 委員
- ⑪ 寺田 道子 委員

〈拠点公民館職員：8名〉

- | | | |
|-------|----------|--------|
| ① 西 区 | 指扇公民館長 | 内ヶ嶋 直哉 |
| ② 北 区 | 大砂土公民館長 | 武笠 充裕 |
| ③ 大宮区 | 桜木公民館長 | 茂木 深雪 |
| ④ 見沼区 | 大砂土東公民館長 | 岩井 由起子 |
| ⑤ 桜 区 | 田島公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑥ 浦和区 | 岸町公民館長 | 秦 利明 |
| ⑦ 緑 区 | 大古里公民館長 | 春日 徹也 |
| ⑧ 岩槻区 | 岩槻本丸公民館長 | 青木 文彦 |

〈事務局：8名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|--------------|--------|
| ① 館長 | 岸 聖一 |
| ② 参事兼副館長 | 中村 和哉 |
| ③ 主幹兼事業・企画係長 | 野口 みずほ |
| ④ 事業・企画係主査 | 曾根 啓佑 |
| ⑤ 事業・企画係主査 | 三井 響子 |
| ⑥ 事業・企画係主事 | 小暮 裕貴 |

⑦ 事業・企画係社会教育指導員 松本 みはる

⑧ 事業・企画係社会教育指導員 成尾 千里

4 欠席者名

〈委員：1名〉

① 丹 能成 委員

〈拠点館長：2名〉

① 鈴谷公民館長 井出 浩史

② 文蔵公民館長 石関 達

5 議題等

- ・前回会議録について
- ・令和4年度下半期アンケート集計の報告について
- ・「デジタルトランスフォーメーション(DX)推進に向けた公民館事業のあり方について」
素案について

6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第7回会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第7回会議名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第7回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第6回会議議事録
- (5) 令和4年度公民館事業アンケート集計結果について【資料1】
- (6) さいたま市公民館運営審議会 デジタルトランスフォーメーション(DX)推進に向けた公民館事業のあり方について 答申(素案)【資料2】

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

冒頭、人事異動による新任生涯学習総合センター館長、新任拠点館長、新任担当職員の紹介を行った。

引き続き、事務局より前回会議録について説明を行った。

- ・議題 令和4年度下半期アンケート集計の報告について事務局より説明した。

山中委員長	下半期で高齢者事業が増えているとのことだが、具体的に増えた講座の内容等はわかるか。また、まとめ部分は上半期と違いがあるか。
事務局	まとめ部分について、同じ調査項目なので大きな違いはないが、自由記載の欄にスキルアップや再就職に関する内容が増えていたので、その点を加えた。講座内容について、下半期に特定の分野が増えたということはない。
山中委員長	半期ごとに見るというよりは、1年間の中でこういうニーズがあるということを知るための調査と理解すればよいのか。
事務局	その通りである。
加藤（美）副委員長	問6について、コロナの影響もあるかもしれないが、「自分がスキルアップしたい」「自分がこうなりたい」という回答はあるものの、例えば「地域に還元する」「学校で指導する」といった回答が見られない。こうした回答は全くなかったのか。
事務局	現状、公民館においてはデジタルデバインド対策の段階であり、講座参加者は機器を使いこなせていない状況の方が多いため、そこまでの意見が出てきていないのではないかと。 デジタルデバインドが解消されてくると、地域への還元等の回答も出てくるのではないかと。
加藤（美）副委員長	今後、受講者のレベルアップに伴い、そうした意向が出てくるかもしれない。そういう内容も答申に反映できるといいと思う。
寺田委員	パソコンやスマホの講座は人気があると思うが、上半期、下半期とも受講していると、当然スキルアップしたいという意見は多くでてくるのではないかと。受講者を決める際の選ぶ基準などあるか。
事務局	アンケートは、パソコンやスマホ講座に限らず公民館のすべての講座で実施した。
小林委員	私自身公民館のIT講座で講師をしているが、その際は過去に受講したことのある方は受講できません、といった募集の仕方をしている場合もある。全体的な意見であればダブリは否めない。

山中委員長	今後、デジタルに関するニーズ把握の精度をより向上させる必要性もあるように感じた。
-------	--

・議題 「デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進に向けた公民館事業のあり方について」
素案について事務局より説明した。

山中委員長	<p>2 「さいたま市の動向と公民館における取組等」 5、6頁 アンケート調査のまとめは入れないのか、まとめとして、そこから何を読み取るかを加える必要がある。</p> <p>3 「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」 7頁 過去の答申の内容が反映されているということが読み取りにくい印象。また、グループワークの部分について、各グループの意見と事務局の考察が混ざっているため、到達点がわかりにくい。グループで話された内容を上手く項目を立てて説明してもよいのかなと思う。</p> <p>8頁～9頁 グループワークのまとめ、「今後も～」と言えるのか。グループワークの内容としてはスケールが大き過ぎる印象を持っている。</p> <p>4 「DX推進に向けた公民館事業のあり方について」 9頁からの「プラスα」という言葉に違和感がある。10頁になると「プラスαの特色」があるが、既存のものに加わって新たな特色が出てくるというイメージがつかない。広報面でメリットがあるというのは特色か。 「おわりに」 デジタルリテラシー向上の必要性が明確となったとあるが、グループワークのまとめとして大き過ぎるように感じる。 スキルアップとは何か、といったあいまいな部分をクリアに把握しながら、事業展開に結びつけるような具体性がある答申としていきたい。</p>
加藤（恒）委員	<p>3 「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」 7頁にデジタルの活用について、利用者にメリットがあるだけでなく、これまで公民館を使用していなかった方にも効果がある、という記載があるが、この部分を詳しく書いてほしい。データとなっているアンケートは利用者からの回答であり、今まで公民館を利用していない方、利用しづらかった方の意見は表れていない。グループワークでは、公民館でDXが推進されICT化することで、公民館を利用しづらい方、例えば子育て中・若年層・仕事が忙しくて時間がない方・障害者の方々にも使いやすくなる、アクセスしやすくなるのではないかな。そういうことも期待したいといった意見が出ていたので、そうした文言を具体的に取り入れてほしい。</p> <p>4 「DX推進に向けた公民館事業のあり方について」 9頁 デジタルの活用について、広報面においてだけでなく、例えば手続きや講座の形式をICT化することで、公民館への道を開くなど記載が入るといい。</p>

山中委員長	グループワークの意見をどう書き込んで、生かしていくか検討が必要である。
寺田委員	4 「DX 推進に向けた公民館事業のあり方について」 10 頁の公民館の役割に関する記載について、とても大事なことである。 1 「DX 推進に関する国の動向」 3 頁の図 3 の文章で、10 代から 30 代と記載があるが、図を見ると 20 代から 30 代の誤りではないか。また、40 代から 60 代以上という記載は、40 代以上でよいのではないか。
事務局	ご指摘のとおり修正する。
島田委員	4 「DX 推進に向けた公民館事業のあり方について」 9 頁 職員のスキルアップは不可欠だが、公民館ごとに職員数や職員の任用形態、年齢層が異なるため、一律のスキルアップを求めても実現が難しいのではないか。組織体制の見直しなども含めた抜本的な対策が必要と感じる。
大塚委員	3 「公民館の役割及び DX の推進に対する期待と課題」 グループワークの中で、公民館が地域の中心拠点になって、特色を生かして地域の課題解決に寄り添った講座を、といった意見があったが、その地域の課題が「高齢者が IT を使いにくい」といった問題だけになっていて、地域の生活している人たちが困っていることや課題に触れられていない。さいたま市は広いので、それぞれの地域の問題点、困っていることがあると思う。それを公民館の講座でステップアップし、課題が解決できるような講座が開かれるとうれしい。
山中委員長	地域住民による地域課題の解決や地域づくりというところまでは言及されていないので、具体性を意識した展開を考えるとよい。
小林委員	具体性が足りないと感じる。さいたま市として、他の地域に比べ公民館で何ができるのか、今回のアンケートを経てどの方向性でやっていくのか、課題の解決の仕方を DX と絡めてどう取り組んでいくのかを具体的に書いた方がよいと感じた。グループワークで出た意見をまとめて掲載してもよいかと思う。
加藤（美）副委員長	具体例は 4 の項目にまとめるのは難しいと思う。具体的なものが書けるような項目を立ててもよいかと思う。 「はじめに」 1 頁の「一方、さいたま市の公民館では～」に「デジタル教育の充実とともに、住民同士が対面によりつながりを持てる機会の充実も求められる」を加えるとよい。 2 「さいたま市の動向と公民館における取組等」

	<p>3頁 さいたまデジタル八策を中心に整理を進めるだけでなく、整理を進め様々な施策に着手していることも記載したほうがよい。</p> <p>4頁(2) 地域ICTリーダーの育成という項目だが、内容は活躍となっているので、タイトルを「地域ICTリーダー」とし、内容は育成状況や活躍について書かれるとわかりやすい。</p> <p>通信業者との連携協定については、「協定」を取って「連携」とし、内容にこの三つの会社と協定を締結し各ショップや公民館でスマホ講座を実施しているとした方がよい。</p> <p>キャッシュレス決済の導入を入れるなら、各区役所やうらわ美術館でも対応しているといった内容にする。</p> <p>この3点だけでなく、いろいろな手続きや講座の申し込みなども加えた方がよい。</p> <p>3 「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」</p> <p>6頁 2段落目「推進できると良いと思う」が感想を言っているようなので、「求められている」または「必要がある」という書きぶりがよい。</p> <p>4 「DX推進に向けた公民館事業のあり方について」</p> <p>9頁 下段「良いだろう」「示せると良い」などの記載について、審議会からの提言であるため、「必要がある」など明確に述べたほうがよい。ハイブリッド形式の～は「いつでもどこでも誰でも学べる環境づくりのために、ハイブリッド形式の講座やオンデマンド形式の講座など、最適な方法を選択し、実施する必要がある」と書いた方がわかりやすい。</p> <p>10頁 最後の4行は大事だと思う。その前に「デジタル機器を道具として扱い」とあるが、あくまでも手段なので、手段という使い方にして、デジタルの活用により、問題解決や価値創造ができる人材の育成を目指されるべきとか、目指すべきなど、この部分の終わりに入ってくるとさらによいと思う。</p>
栗原委員	<p>4 「DX 推進に向けた公民館事業のあり方について」</p> <p>10 頁 最後の4行に具体例がほしい。つながりづくりと地域づくりの観点で臨むなかで、公民館がネットワークの力でDXを使いながら、どうやってつながりや地域づくりを行うかを記載するとより深まる。公民館のサークル支援機能やコミュニティスクールとのつながりにおいて公民館がDXをどのように取り入れていくかが重要だと思う。</p>
石田委員	<p>文章が長すぎて読む気がおきない。よいことが書いてあるが、結局何が言いたいのかわからなくなってしまふ。</p> <p>4 「DX推進に向けた公民館事業のあり方について」</p> <p>10頁 公民館の役割は必ず記載すべき。この公民館の役割を見失わず「集う」居場所を提供することが大事、従来の「習う」形式ではなく気軽に学べる、参加できる環境づくりが必要。今まで公民館に出向けなかった人たちもオンラインで参加することができますよ、ということに尽きると思う。結局、デジタルデバイドの解消で、スマホやパソコンの使い方の講座は公民館</p>

	<p>に求められているのか。個人が努力してやるべきこともあるのではないか。公民館事業として、そこで学んだことから次にどう発展させていくかを明確にして講座作りをするとよいと思う。</p>
山中委員長	<p>公民館としての役割を問う意見が多く出ていたので、それについての具体性や積極性を高めていくとよい。</p>
植杉委員	<p>「はじめに」「おわりに」 「はじめに」と「おわりに」で述べている、答申に期待する内容に統一感がない。既に「はじめに」で述べているので、「おわりに」の2行はいらないのではないか。 この答申では、「はじめに」で書かれているDXの推進への寄与と、「おわりに」で書かれている社会教育の振興への寄与のどちらをより期待するのか、文言の使い方も含めて再考いただきたい。 この答申はDX推進に向けた公民館事業のあり方についての答申なので、「はじめに」で書かれているようにDXの文言が入っている方がよいのではないか。</p>

11 その他

次回（第8回）は、令和5年7月25日（第4火曜日）午前10時から、会場は生涯学習総合センター10階多目的ホールで開催予定であることを確認した。

12 閉会